



浅野 梨郷

ASANO Rikyo

代表作

『梨郷歌集』(1931 年)
『名古屋の名所・旧蹟』(1940 年)
『豊旗雲』(1956 年)
『糸ぐるま』(1968 年)
『卒寿百韻』(1990 年)

ほか多数の結社誌に短歌を掲載

活動略歴

- 1889 年 名古屋市東区東外堀町二ノ四に生まれる。本名利郷（としさと）。名古屋市に住み九歳より歌を作り始める。
- 1904 年 愛知県立第一中学校（現・旭丘高校）に入学、依田秋圃との縁で東京外国語学校在学中に伊藤左千夫氏に師事、斎藤茂吉、島木赤彦、土屋文明等と「アララギ」発行に加わる。
- 1924 年 北原白秋、前田夕暮、釈迢空らと『日光』創刊。
- 1927 年 鉄道局副参事、2 年後従六位に叙せられ、翌年鉄道省を退職、現・(株) JTB 主事に。
- 1931 年 秋圃と歌誌『武都紀』創刊、「梨郷歌集」発行。
- 1935 年 名古屋市嘱託職員、翌年大日本歌人教会会員。2 年後の汎太平洋博覧会では市初・公設の通訳士として活躍する。3 年後には産業部観光課長（初代）となる
- 1950 年 宮中新年歌会始に入選し披講、翌年日本歌人クラブ地方幹事就任。
- 1956 年 中部日本歌人会代表委員就任。歌集「豊旗雲」刊行。
- 1979 年 武都紀歌会発起、中部歌人会協賛で現・徳川園庭園に歌碑を建立 没

参考／『卒寿百韻』浅野梨郷・著（1990 年 刊）
『武都紀』山崎多比良・編（短歌雑誌武都紀）

ASANO Rikyo (1889– 1979/ Tanka Poets)

Born in Nagoya City. He began writing Tanka poetry at the age of nine and participated in the early days of the Tanka magazine "ARARAGI." While working as a civil servant, he interacted with famous Tanka poets such as Ito Sachio, Saito Mokichi, and Tsuchiya Bunmei, and was a central figure in building the foundations of the Nagoya Tanka world.

He also founded the Chubu Japan Tanka Poets Association and mentored the next generation of Tanka poets.

ジャンル / 短歌

Tanka (tanka poem)

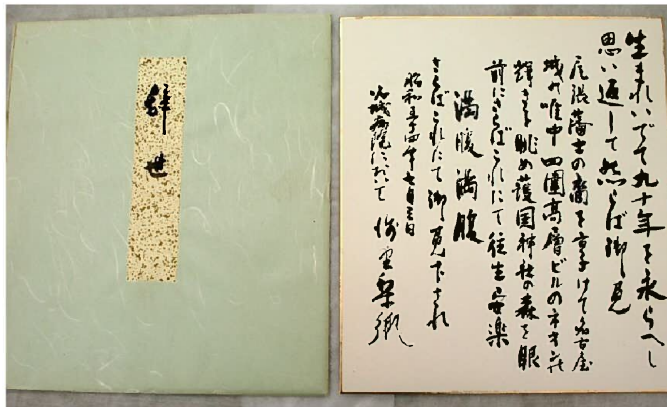
名古屋市収蔵の資料

／浅野梨郷

(一部掲載；収蔵先 文化のみち二葉館)

Collection related to ASANO Rikyo in Nagoya City.
Storage location: Cultural Path Futaba Museum,
City of Nagoya.

←浅野氏は旧尾張藩主家生まれ。
二代藩主光友公のご隠居所だった
徳川園に歌碑が建立された。
「うつりつつしづかに色をかへていく
豊旗雲(とよはたぐも)の 雲のたなびき」



↑辞世の歌。他原稿、短冊も多数収蔵されている。



↑熱田神宮「献詠祭」の写真。裏には
「1965.11.3」とある。この献詠祭の
選者には、浅野氏、春日井瀧氏も参列
していたという。

上記資料の閲覧を希望される方は、[文化芸術推進課](#)または[文化のみち二葉館](#)までお問い合わせください。
なお、学術研究または教育普及目的の場合にのみ閲覧が可能で、所定の手続きが必要です。